

1

カルビー株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 自社のGHG排出量だけでなく、サプライチェーン全体のGHG排出量を算定することにより地球温暖化への影響度を把握し、長期的な戦略につなげる。● ステークホルダーからの情報開示の要求に応える。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーンのGHG排出量を含む全体の総排出量を算定することにより、削減すべき対象を明確にし取り組む。● CDPをはじめとする各種調査・アンケートへの対応及び、当社の情報開示に活用する。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 自社として取り組むべき課題が明確になる。● 各種開示要求に対応できる。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 生産管理部環境対策課が主管となり、各関係部門よりデータを収集し算定する。

2

カルビー株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none">● GHG排出量は、原材料・資材調達などの占有割合が高く、今後サプライヤーとの協働の取組が必要。● 研究開発等による容器包装の減容化及び軽量化を図り、輸送配送も含めたGHG排出量を削減する必要がある。
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none">● 今回の算定では、カルビー単体及びカルビーポテト(株)の一部を算定範囲としたが、今後国内外のグループ全体を算定範囲を段階的に広げ、GHG排出量の削減対象を明確にし、取り組む必要性がある。
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none">●

3 カルビー株式会社

カテゴリ王なし	算定方法 ※算定対象期間：2018年4月～2019年3月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材購入量 重量優先次に金額の順に把握	● 原単位SC-DB,味の素DB
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● 原単位SC-DB
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料、電気のエネルギー使用量	● CFP-DB
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 荷主輸送のトンキロ ● サプライヤー輸送はシナリオ	● トンキロ法
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量 ● 排水施設からの発生量	● 原単位SC-DB ● 排水処理DB
カテゴリ6「出張」	● 従業員の出張日数（国内・海外含む）	● 原単位SC-DB
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員営業日数	● 原単位SC-DB
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● リース車両	● 原単位SC-DB
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 出荷重量、製品輸送はシナリオ	● 輸送時の排出原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 容器包装リサイクル量	● 原単位SC-DB
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ15「投資」	● 該当なし	● 該当なし
「その他」	●	●

4

カルビー株式会社

サプライチェーン排出量算定結果

